

※ 右側の外部評価欄に4段階評価の点数、コメント欄に気付かれた点や感想などを御記入ください。
4段階評価
【4・・・期待以上 3・・・ほぼ期待通り 2・・・やや期待を下回る 1・・・改善を要する】

学校経営ビジョン				※ 右側の外部評価欄に4段階評価の点数、コメント欄に気付かれた点や感想などを御記入ください。 4段階評価 【4・・・期待以上 3・・・ほぼ期待通り 2・・・やや期待を下回る 1・・・改善を要する】			
一人一人を大切に、小規模校の特色を生かした教育活動を展開するとともに、学校・家庭・地域が一体となった取組により、子どもたち一人一人のよさや可能性を伸ばし自信をもたせる教育を推進する。							
評価項目	評価指標	数値目標	自己評価 達成率（％）項目別総合	自己評価に対するコメント（○成果 ●課題）	改善方針	外部評価	学校関係者のコメント
学力の確かな向上	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着のための授業改善	○全国、みやざき学力テストの県平均以上、単元テスト期待平均点以上 ○「高崎地区学習の心得」の達成率80％以上	100 4 100 4	○授業改善の4つのチェックポイントを常に意識して授業をおこなっていた。100％ ○単元テスト期待平均点以上教師100％児童82％でできず改善が高い。 ○全国学力テストでは、「国語と文・読解力」の項目を取り組む計算する力を身に付けさせる手立てが必要であった。 ○「高崎地区学習の心得（TSR）」について小中一貫での取組み、啓発活動を行った。継続して指導していく。 ○とでも良くわかる52.9％、良く分かる41.2％答えた。先生方が4つのチェックポイントを使った授業改善に取り組みを行った。 ○PTAの協賛した活字の活用を全校児童・生1人1人で行い、実践した。 ●年間の研修などを通して、「わかる授業」を行っていくよう課題がある。	○引き続き、文章や図から読み解く力を伸ばす授業の改善が必要である。 ○都城市主催Q-1グランプリ、AID-リル等の積極的な活用を図る。 ○初の取組となったので、次年度も引き続き行い、職員、保護者、地域の共通理解・定着を図っていく。	3.4	○授業に取り組み姿勢もよく、積極的に発言する姿を見て、学習意欲が感じられた。学力向上に繋がっているのではないかな。 ○「高崎地区学習の心得」を見童・保護者へ積極的に発信し、来年度も継続して取り組んでいきたい。 ○児童が授業内容を本当にできているのか確認が必要ではないか。 ○「読み取る力の向上」ということであるが、新聞を積極的に活用して欲しい。読むだけでなく、積極的に「書く」活動も取り入れ、新聞投稿などを積極的に発信する活動を行っていくように思う。 ○始業日をシグフィーで配信して欲しい。 ○図書においては、貸出冊数だけでなく、本の感想を伝えあったり、紹介し合うような活動をしたらどうか。
	2 児童一人一人に応じた指導方法・体制の工夫・改善	○授業が「分かる」と回答する児童80％以上 ○週2回のチャレンジタイムの時間の計画的運用・実施	94 4 100 4	○児童主任や図書サポートを中心に、読書の楽しさを伝える活動の企画を定期的に行的ことで、本について興味をもつ児童が88％になった。 ○図書サポートに絵画活動の読み聞かせを行った。ランチルームに図書の本コーナーを設置した。早く食べ終わった児童が本を読みながら待てるような時間確保ができた。 ●1週間に1回は本を借りている児童が88％となっており、約23％の児童は、あまり図書室を利用していないことが分かった。くれよんや1日1冊程度は借りているが、図書室の本を借りることが少ない児童への対応が必要である。 ●自分で文字を通して、本をじっくり読むことに課題がある。	○8時から5分間の朝読を徹底し、読書を習慣化を図る。 ○8時半は、授業内容が多岐多岐の中でなかなか図書室を利用する機会がないので、月曜（読書）の時間に図書室に行き、本を借りる時間を設定する。 ○くれよん等を積極的に活用するよう促す。 ○図書室サポートの先生が来校される火曜日を中心に本に親しむ機会を作ったり、本を借りる際のアドバイスをもらったりする。		○児童だけでなく、保護者の認識、意識の向上が必要だと思う。
	3 読書活動の推進	○年間読書冊数、低学年100冊・中学年80冊・高学年60冊以上 ○「月1回は家庭に読み取り組ませた」と回答する保護者が60％以上	低119 中75 高75 72 2	○シグフィー・参観日を活用した「家庭の日」の啓発活動、家庭のやり方やカードの活用などを行った。目標値である80％以上の家庭で家庭の取組を行うことができた。 ●家庭に積極的に取り組んでいる家庭と取り組んでいない家庭がある。保護者への説明・啓発を継続する必要がある。	○ 第3日曜日は「家庭の日」で「家庭」の日であること、学校通信や、学校だより、シグフィー配信等で保護者に周知していく。		
豊かな心の育成	1 基本的な生活習慣の定着	○児童アンケート「生活のきまりを守っている」と回答が80％以上 ○月1回の心のアンケートにおいて、いじめ早期発見・いじめ早期解決100％	94 4 88 3	○生活のきまりを守っていると答えた児童が94％であり、目標値を達成した。 ○学校担任と生徒指導主事、全職員で連携し、教育相談の充実と迅速な対応に務めた。心のアンケート・教育相談において、いじめ・解決100％に努めた。 ●進捗や生活の授業はめだなる88％と答えている児童がいる。実践力へと繋がるよう日々指導の継続と見守りが必要である。	○自ら考えて行動（考動）できるような言葉かけを全職員が行う。 ○「道徳」「学習法」の授業等を通して、きまりを守ること大切さを指導していく。 ○「悩みアンケート」「教育相談」を活用し、いじめの早期発見・早期解決に務めた。日常の見守りや、児童が学校が楽しいと感じられるよう対応が必要である。	3.8	○地域の方々の見守りの元、子どもたちは安全に登下校でき、挨拶もしっかりできている。 ○道徳の授業を引き続き充実させて欲しい。自分たちに置き換えて考える力を身につけさせて欲しい。 ○悩みアンケートで、心状態を把握できる取り組みがよい。これからも続けて欲しい。
	2 いじめのない学校	○学校が楽しいと感じる児童100％	3.3	●生徒指導の3機能（自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的な人間関係を育成する）を目標とした授業や学級作りを職員が実践した。学校が楽しいと感じている児童が88％であった。（自分の命・友達の命を大切にしている88％・保護者・友達関係に良好88％・学校などを通して職員の数と力をあわせる必要がある。 ●悩みをすぐに相談できるよう、意識した見守りや声かけが必要である。	○児童の小さな変化に気づいて、声かけを行ったり、SOSの出し方についての指導を徹底していく。		
	3 コミュニケーション能力の育成	○挨拶や返事ができたとする子どもが80％以上	94 4	○挨拶に関しては、気持ちのよい挨拶を職員の100％が指導し、94％の児童が実践している。 ●保護者が見た児童の挨拶は71％しか挨拶をしていないと感じている。学校外での実践指導が必要であった。 ●挨拶が一貫して指導すること80％の達成であった。 ●返事については、児童100％、職員100％、であったが、保護者64％しかできていないと感じていない。	○全校集会や学級において、挨拶・返事の大切さを講話したり、挨拶・返事指導を徹底していく。（学校）PTAと協力し、気持ちの良い挨拶をするように家庭でも働きかけるようにする。（PTA）		○挨拶は、地域も方々に非常によくできている。
健康教育の充実と体力向上	1 健康で安全な生活習慣の定着	○ふもとっ子がんばり週間の早寝・早起き・朝ご飯の達成率90％以上 ○学期に1回メディアコントロールについて家庭との連携を図る ○メディアコントロールができたとする児童80％以上	90 4 82 3	○2学期は、児童アンケート朝食100％、早寝64％、早起き87％であった。 ○健康診断による「保護者よりやりやすふもとっ子がんばり週間の実践を行ったことで、児童への啓発・振り返りができた。 ●遠くまで起きている児童（39％）も見られたため、メディアとの付き合い方を継続して身守り・習慣化していくことが必要である。 ○第1回学校保健委員会では講師を招き、メディアに関する講話を行った。第2回は、「目・良いおやつ作り」を通して、メディアコントロールの重要性に関する啓発を行うことができた。 ○メディアコントロールの指導は100％行っている。 ●職員による家庭との連携80％メディアコントロールができていた児童82％とメディアコントロールの周知ができていたことが分かる。	●暑熱対策でできていないことがあった。メディアとのかわり等、今後も継続した啓発が必要である。 ○睡眠時間（学校に定めた時間）の確保、学習時間（宿題をする時間）の確保をしっかりと親や子に伝える。 ○PTAと連携した取組を行う。（ふもとっ子がんばり週間の設置）	3.6	○学校と家庭が連携して、早寝の習慣化を図る必要があった。 ○学校と保護者が連携を図り、まずは家庭での状況把握をしっかり行うことが大切だと思う。 ○運動会では、地域・保護者が一体となり行事を盛り上げていた。子どもたちにとっては、よい刺激・環境であらうと思う。 ○一人一人の運動能力に合わせ、無理なく取り組めるプランが考えてある。
	2 体力の向上	○体力テストの結果を踏まえた取り組みを実施100％	100 4	○A判定の児童（RSは1名、RSは3名）が増えた。 ○児童の運動量の確保（100％）児童のぐんぐんタイムの取組（100％）取り組んでいる。 ●「上体起こし」「腹力」など自分の体を支える力やパワーを高める必要がある。	○体力向上プランを年に、学年または全校で落ち込んでいる項目の運動を準備運動などで行うなど共通実践をする。 ○ぐんぐんタイムを活用し、サーキット運動を行った。天気のよい昼休みは身体を動かして外遊びをするよう啓発した。		○前田地域の校區は大変広い。遠くから通って来る児童もいたが、最近では学校の近所に住んでいたりと、送迎してもらっている状況もある。学校を支援して下さる地域の方が朝の登校見守りをしてくださり、大変ありがたく思う。
	3 安全教育の推進	○年間3回以上の避難訓練の実施 ○子どもも目標になった安全点検の月1回の実施	100 4 100 4	○計画通り避難訓練を、年3回行うことができた。どの訓練も速やかに行うことができた。火災訓練では地域と一体となって訓練を行うことができた。 ○毎月、安全点検を行い施設で安全が確保できないものはすぐに申請をし、修理していただくようにした。 ○避難訓練の真剣な取組100％と回答している。 ●毎月1日は命を大切にすることの共通理解を指導の充実を図る必要があった。 ●命を大切にすることが毎月1日であった。前の放送で取りかいていたが、最後の放送で速やかに当たることがあったため、全職員、児童への啓発が必要であった。施設で安全が確保できないものはすぐに申請をし、修理していただくようにした。			○命を大切にすること（毎月1日）を大切にし、保護者にも発信して欲しい。
家庭・地域と一体となった教育の推進	1 学校運営協議会を中核とした地域との連携	○授業への地域人材・素材の活用年間6回以上 ○家庭・地域との連携に関する保護者アンケート満足度80％以上	100 4 92 4	○ふもとっ子や伸ばす会・民生委員の協力をいただき、福祉体験活動（田植え・稲刈り・脱穀・もちつき・めもち等）野菜栽培や谷川・緑の保樹会の方々の協力（保樹会の方々の協力）で実施したことができた。 ○高崎フットパスも地域の方と一緒に取り組むことができた。 ○家庭と地域の連携については、満足度92％だった。		4	○地域の協力・交流も多く、地域との密なつながりを感じる。 ○学校と家庭と地域の距離感が近く、子どもを中心に成長をみながら見守る環境である。 ○T2学習を見ることができたので、本校児童の学習の様子だけでなく、高崎地区の児童生徒の学習の様子を見ることができた。 ○シグフィー配信でペーパーレス化を図ることができた。 ○めのもち作りは1/14以前に行った方がよいと思う。 ○環境教育への取り組みが行われ、とても嬉しく思う。
	2 小中一貫教育の推進	○小中一貫教育の共通実践を工夫して取り組んだとする職員が80％以上	100 4	○高崎・富水ブロックで共通実践している9年間で身に付けたい力をもとに、小中一貫で実践を行うことができた。 ○年2回、高崎・富水ブロックでの小中一貫教育の研修を開催、T2学習で高崎地区で共通実践を行うことができた。			
	3 学校からの情報発信	○月1回以上の学校だよりとHP更新	100 4	○月1回の学校だより（発行）（地域の関係者による発信）、1週間に1～2回のホームページ更新、シグフィーの活用、職員による定期的な学級通信など、学校からの情報発信を積極的に行うことができた。			
	4 環境教育の推進	○年2回以上講師を招き、4Rについて理解の深化 ○生活科・総合的な学習の時間での年間を通した計画的な取組を実施	100 4	○「SDGs」「4R」授業、講師を招いた校外学習を行い、環境について学習できた。 ○4Rのためにできることをしている児童（94％）が増えた。前年が好きな児童が94％であった。 ○ふもとっ子や伸ばす会のご協力を得た福祉体験活動、めもち、紅もち作り、環境について学ぶ校外学習等、年間を通して計画・実施することができた。 ●悪天候が続き、脱穀が数回延期となったが、実施できた。			